



第4回 福井空港ビル再整備構想検討委員会

令和7年3月26日
福井県

目次

議題1.第3回委員会の振り返りなど

- 1.1.第3回委員会での意見
- 1.2.他空港の事例（第3回委員会以降調査分）

議題2.福井空港の概要および利用状況

議題3.防災の拠点としての空港

- 3.1.福井空港における防災ヘリ等の利用状況と防災計画上の位置づけ
- 3.2.災害時における空港の活用事例
- 3.3.大規模災害時における空港の被災事例

議題4.ワークショップでの意見

議題5.福井空港が目指す姿

- 5.1.福井空港の課題（各種意見等）
- 5.2.福井空港が目指す姿（案）
- 5.3.福井空港ビル再整備に係る敷地レイアウト（案）

議題6.福井空港ビル再整備に係る敷地レイアウト（案）

議題7.新空港ビルに導入する機能（案）

委員会のスケジュール

委員会スケジュール（令和6年度）

キックオフ講演会
（令和6年6月23日）

第1回委員会
（令和6年7月8日）

- ◆現状（日常・防災）
と将来像の共有
- ◆空港の抱える課題

第2回委員会
（令和6年9月11日）

- ◆施設内のレイアウト
- ◆空港ビルの規模

第3回委員会
（令和6年10月22日）

- ◆他空港の事例
- ◆施設内のレイアウト
- ◆空港ビルの機能

第4回委員会
（令和7年3月26日）

- ◆空港が目指す方向性
- ◆施設内のレイアウト
- ◆空港ビルの機能



地元住民の皆様への説明や意見を伺う場
（ワークショップ）

議題1

第3回委員会の振り返り

1.1 第3回委員会での意見（共通事項）

- 空港機能と直接無関係の施設も考えられ、全部を官公庁だけで再整備・運営できるとは限らない。空港の場合、収益の境界が200万人、エアサイド側（滑走路やエプロンなど）も全て入れて黒字になると言われているが、民間事業者が関与するのであれば、収益性が重要になる。
- 空港ビルのレイアウト計画では「福井らしさ」も加味することが大切である。国内の空港民営化では、地元らしさが度々出てきて議論となる。地元のことは地元の人が意外と分かっていないこともあるから、よそ者の眼も必要かもしれない。そこでワークショップでの議論も踏まえた議論も必要。
- 地元の利活用という点で議論されるが、航空機の運航費は非常に高い。防災ヘリ、消防ヘリ等はインフラとして行われているから成立つ。医療搬送する病院が近くにあるなどで付加価値を持たせ、航空機の利用が安いという考えに変えることができれば、ここに福井空港があれば非常にいいという印象となるのでは。
- 様々な意見が出ているが、あれもこれも一度に全てということは難しいので
「第1段階はここまで、第2段階はここまで、将来的な課題としてはこういうものがある」と段階を分けて整理してはどうか。

1.1 第3回委員会での意見（共通事項）

- 福井空港の特徴は街に非常に近いことである。ワークショップでは空港に面している道路からのアクセスのわかりやすさだけでなく、周辺施設からのアクセスや動線についても具体的に検討してほしいと意見があった。
- 「福井らしさ」という話だが、春江は「空の入り口」であり、「宇宙」「科学」「サイエンス」といった科学技術が詰まった施設が周辺には数多く存在するので、各施設と空港を上手く繋げることを意識してほしい。
- ワorkshopでは、空港内の施設として防災がベースとしてありながら、先端技術との連携や、飛行機が飛ぶ時間などの情報発信をしてほしいとの意見があった。
- 天草空港は滑走路長は1000mである。当時、天草市が債券を発行して機材を購入し、県が空港を運営している。医者を福岡から運んだり、地域の人が福岡を経由して東京に行ったりするなど、基本的には地域の方向けのサービスである。地域重視という意味では福井空港と共通点がある。
- レイアウトの検討にあたっては現状を前提とするのではなく、将来形も念頭に進めていく必要があり、現段階で詰めすぎないほうがよい。長期的な視点で再整備の計画を進めてほしい。
- スポットの整備に合わせて格納庫の整備も検討してほしい。

1.1 第3回委員会での意見（空港ビル）

- 大きな空港ビルに建て替えることはないのだろうが、コンパクトなビルを建てる場合でも、可変的なパーティションを用いるなどフレキシブルな使い方をするなど、機能の拡充をすることができる。
- この委員会では、小型機による観光やビジネスを中心とした空港利活用の促進を検討する一方で、将来像を見ると長期的には定期的な利用を目指すことになっている。観光ビジネスのお客様には一時滞留するための付加価値を提供することが必要であるし、利用客に対しては普段使いの仕掛けも必要ではないか。
- 敷地を広げる計画ではないため、自ずから建物の面積が限られてくる。建物の階数や、入れるべき機能の絞りこみについて検討していく必要がある。
- 「福井らしさ」というものを考えたとき、福井県の森林面積は県土の約75%ということがある。今後県産材を使っていかなければいけない時期になるので、熊本空港のように一部を木材とすることで「福井らしさ」を出すことができるのでは。

1.2 他空港の事例 下地島空港（第3回委員会以降調査分）



到着時（エプロンを歩いて空港ビルへ）



プライベートジェット利用者等の待合室



開放感のある空間
メインの搭乗ロビー



木造
CLT材



パイロット休憩室

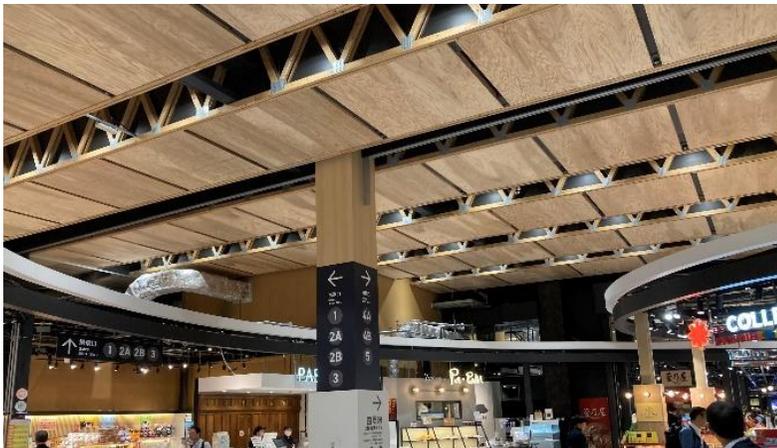
1.2 他空港の事例 熊本空港（第3回委員会以降調査分）



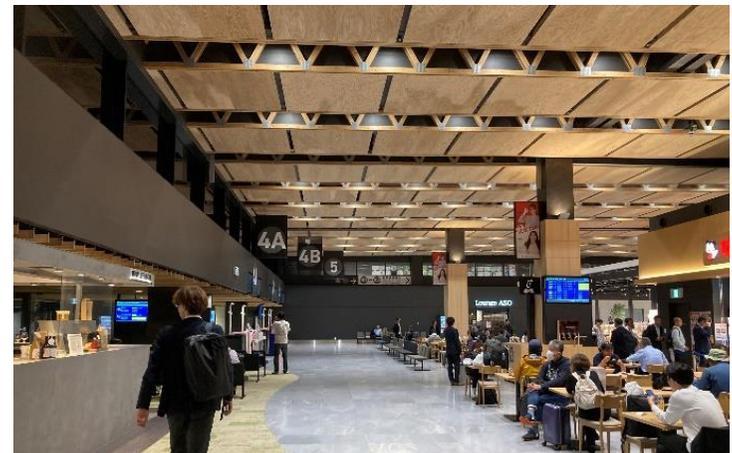
そらよかエリア（飛行機に乗る人以外も利用できる
広場や飲食店などを備えた新しいエリア）



くまもとSDGsミライパーク
（そらよかビジターセンター内）



内装に木材を利用



保安エリア内の
飲食・土産が充実

議題2

福井空港の概要および利用状況

2 福井空港の概要および利用状況

空港諸元

位 置	： 福井県坂井市春江町江留中
運 用 時 間	： 午前9時から午後5時まで（午後5時までに日没の場合は日没まで）
滑 走 路	： 1,200m×30m （着陸帯 1,320m×120m）
エ プ ロ ン	： 8,634㎡ スポット11バース（1バースあたり14m×12m）
空 港 ビ ル	： 1,521㎡（福井空港㈱、福井県）（S40年度竣工 築58年）
給 油 施 設	： レフューラー方式（航空ガソリン(アブガス)、ジェット燃料※）
格 納 庫	： 防災ヘリ、ドクターヘリ、県警ヘリ、福井空港㈱、民間事業者
気 象 観 測 施 設	： 風向・風速、気圧、気温等の各観測施設
駐 車 場	： 146台

利用状況

- ・ 定期便は就航していない（1966年7月－1976年4月：羽田便が2往復就航）
- ・ 自家用および事業用の小型機、ヘリの離発着
- ・ 学生の課外活動としてグライダー利用
- ・ 操縦士ライセンス取得の訓練【着陸回数：1,383回】
- ・ JAXA等による研究開発の場
- ・ 福井空港スカイフェス等の航空レジャーイベント 隔年9月下旬に開催【R5年度来場者数約2,000人】
- ・ 防災ヘリ、警察ヘリ、ドクターヘリの活動拠点施設
【R5年度着陸回数：防災ヘリ270回, 警察ヘリ135回, ドクターヘリ323回】
- ・ 災害時の救援基地【能登半島地震では救援活動】

2 福井空港の概要および利用状況

着陸回数（回）



S41開港・定期便就航

S51定期便休航

H3警察航空隊ヘリ配備

H7防災ヘリ配備

H15拡張整備計画中止

R3ドクターヘリ配備

H16. 7福井豪雨

2 福井空港の概要および利用状況

小型機の利用状況

◆福井空港へのジェット機来港状況（場外離着陸場へのヘリを含む）

運航支援	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度*
補助あり	1	0	1	10
補助なし	6	4	6	14
合計	7	4	7	24

*3/25現在



小型ジェット機の来港



エプロン内へハイヤー横づけ

県民向けイベントの状況



エプロンで早朝ラジオ体操



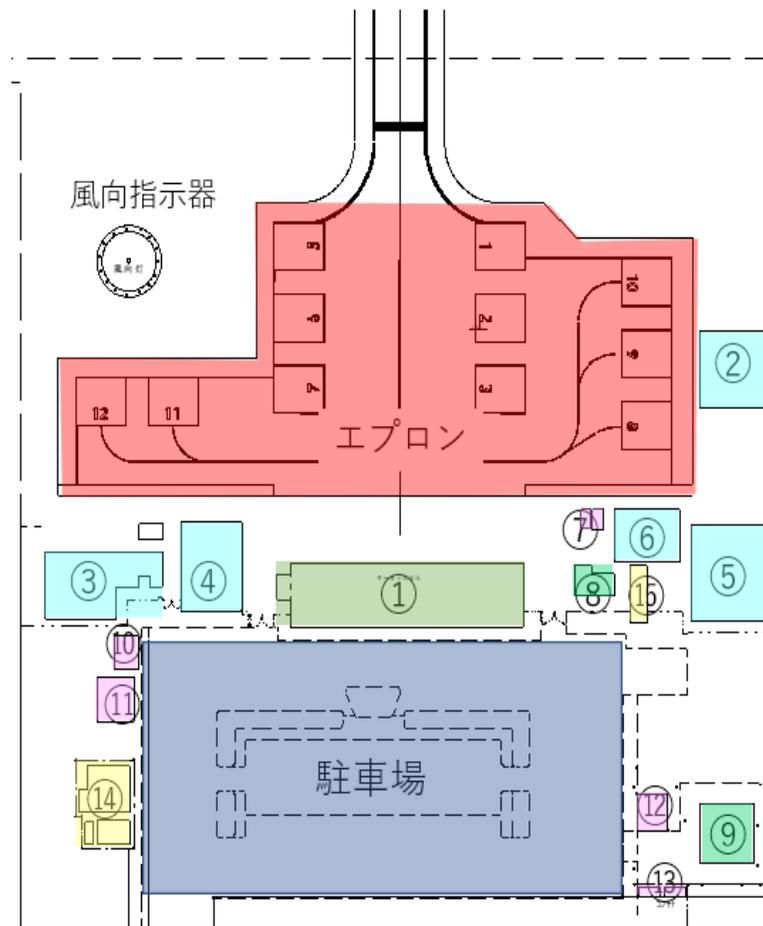
R5.9スカイフェス

県民に福井空港を親しんでいただくため、
様々なイベントを実施

エプロン

◆面積8,500㎡、駐機スポット数11

【現在の施設】

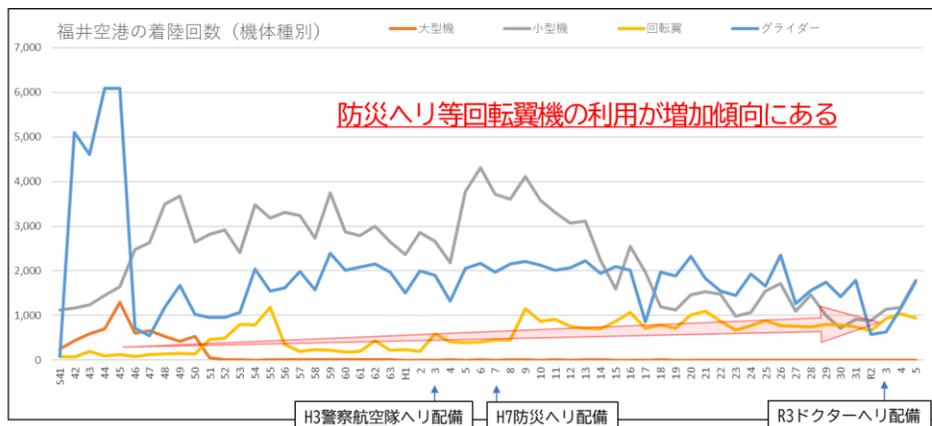


議題3

防災の拠点としての空港

3.1 福井空港における防災ヘリ等の利用状況と防災計画上の位置づけ

防災ヘリ等の利用状況



国土交通白書2020より 1982～1991年 約30年間で 2013～2022年

大雨	243回	約1.3倍	328回	災害の激甚化が進んでいるため 福井空港においても 一層の防災機能強化を図る必要あり
土砂災害	897回	約1.6回	1446回	

防災計画における福井空港の位置づけ

福井県地域防災計画

- ①緊急空輸基地
- ②航空搬送拠点
県内の医療機関では対応しきれない事態のとき、航空機を活用した患者等の県外搬送のために設置する拠点
(航空搬送拠点内には**臨時医療施設(SCU)**を設置)
- ③防災ヘリコプター等の活動拠点

南海トラフ地震における具体的な応急対策活動に関する計画

- ①航空機用救助活動拠点
各救援部隊が駐機・燃料給油等を行う拠点
- ②航空搬送拠点
被災地から広域医療搬送を受け入れるため被災外の空港に設置する航空搬送拠点

能登半島地震における利用状況

- 能登半島地震においては、能登空港、小松空港、福井空港、富山空港が救援支援活動の空港として救援機の受入を行った。



防災ヘリコプター等の活動拠点として活躍



航空搬送拠点として活躍



富山空港

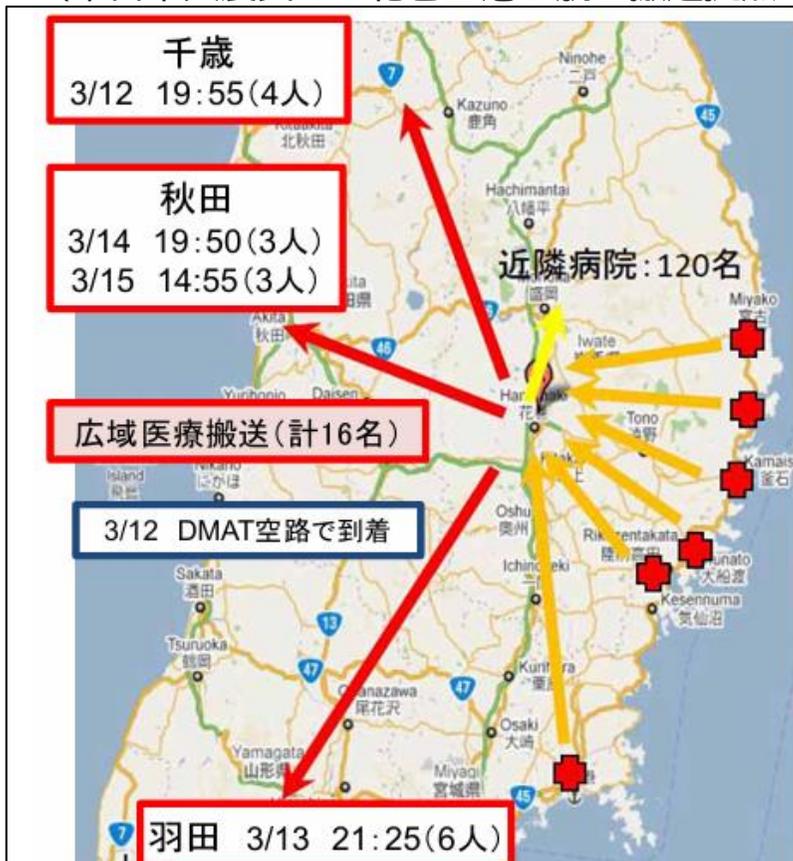


富山県HPより

3.2 災害時における空港の活用事例

東日本大震災での空港活用事例

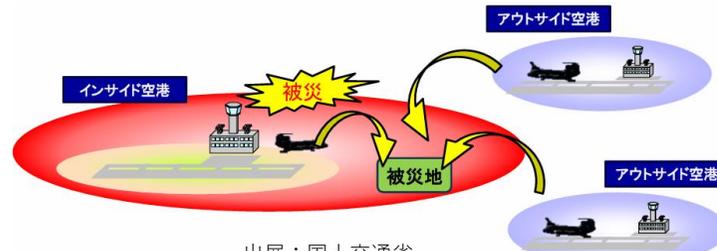
- 道路網が寸断した際、自衛隊ヘリ等で被災地から患者を大量搬送
(東日本大震災では花巻空港が航空搬送拠点に)



出展：国土交通省
「南海トラフ地震広域的災害を想定した空港施設の災害対策のあり方検討委員会」資料より

能登半島地震における空港の活用状況

能登半島地震においては、能登空港の滑走路が被災したこともあり、福井空港をはじめ、周辺の空港が救援・物資輸送等の拠点としての役割を担った。



出展：国土交通省
「空港における自然災害対策に関する検討委員会」資料より

<福井空港の対応状況>

防災ヘリコプター等の活動拠点として活躍



臨時医療施設（SCU）が設置された航空搬送拠点として活躍



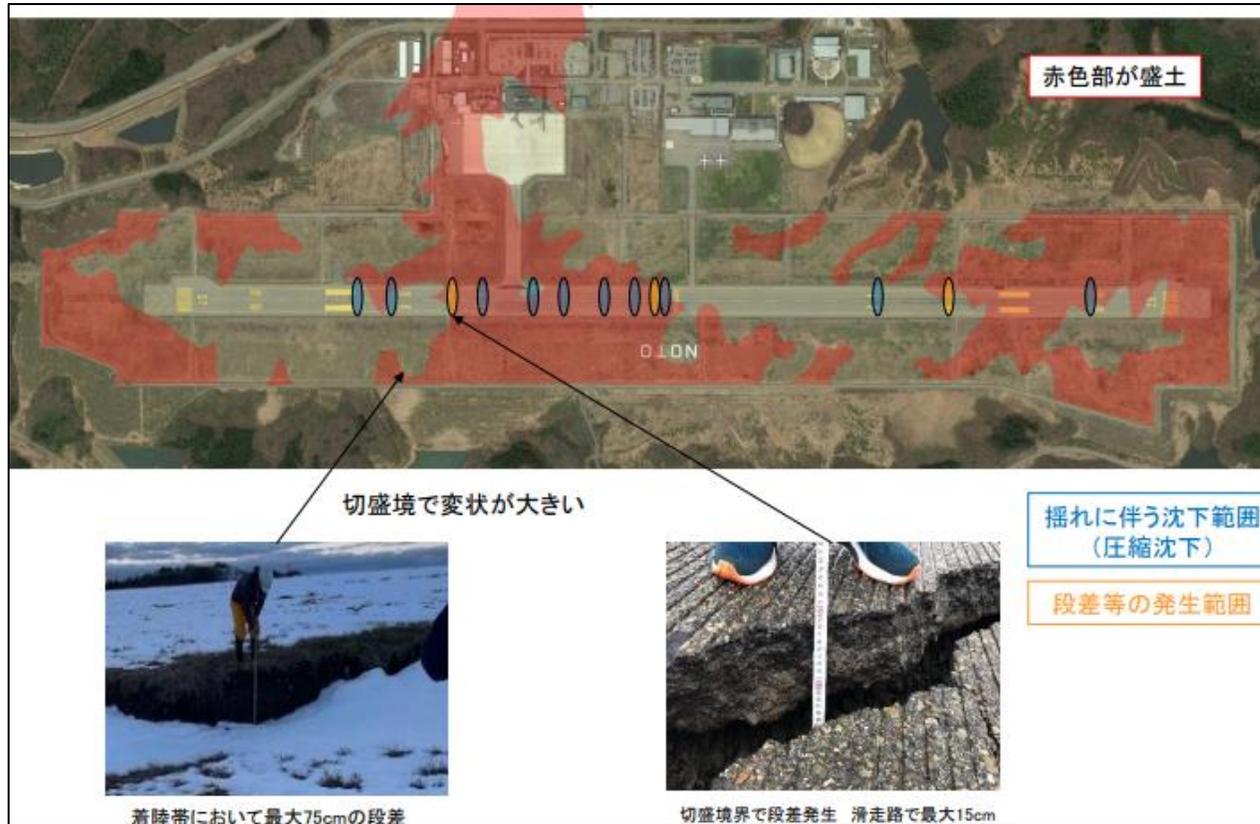
「点のインフラ」である空港は、大規模災害時に道路網が寸断した場合でも「防災ヘリコプター等の活動拠点」「患者などの航空搬送拠点」として防災活動上重要な役割を果たすことが可能

3.2 大規模災害時における空港の被災事例

能登半島地震時における能登空港の被災状況

- 能登半島地震後、能登空港では、滑走路や燃料タンクが損傷
 - 燃料タンクが損傷した場合、応援に来た防災ヘリコプター等が給油できないため、周辺県などの空港へ燃料補給等で戻る必要が出てくる。

能登半島地震時の能登空港



出典：国土交通省「空港における自然災害対策に関する検討委員会」令和6年度検討委員会分科会資料より

大規模災害時に「点のインフラ」である空港機能を着実に機能させるため、福井空港では「耐震化された駐機スポット(エプロン)」「耐震化された燃料タンク」などの機能強化が必要

議題4

ワークショップでの意見

第3回ワークショップの結果概要

▶ 1回目、2回目のワークショップでいただいた意見を踏まえて、ファシリテーターとして参加している大学生のメンバーから提案された3案（a～c）を使って、3グループ（A, B, C）に分かれ意見交換を実施した。

3案各テーマ

- a. 健康的に過ごせる空港 コミュニケーションが誘発する公共性
- b. そらのえき/そらのやど アクティビティの集積によるまちの営みの可視化
- c. 空を仰ぐ 浮遊するステージがつくる透過する空と都市風景

【各班から出た意見概要】

(A班)	<ul style="list-style-type: none">●健康というテーマは観光と結びつきにくい。地域との連携など他の要素と繋げる必要がある●空港に泊まる新しい発想、空港×何かのような新しい発想が欲しい●全体的に人を呼込むための機能や動機が薄い。具体的な提案が欲しい
(B班)	<ul style="list-style-type: none">●飛行機が置いていないと空港の醍醐味みたいなワクワク感や学びになりづらい●日常/イベントなどの非日常/災害などの緊急時の空間の使い分けがc案のようにしやすいと良い●長期的な空間のあり方を考え、アップデートしていくような仕組みがあれば、a案のような子どもの遊び場も面積や動線的にもクリアして計画できそう
(C班)	<ul style="list-style-type: none">●VIPへの対応（動線、機能）をもっと整備すべき●誰のための設計なのか明確にすべきだが、地域住民・VIPのどちらかがおざなりになっても良くない印象●空港で働く人の目線がc案にはなかったため取入れるべき

議題5

福井空港が目指す姿

5.1 福井空港の課題（当委員会や航空関係者等からいただいた主な意見）

① 防災

○大規模災害時において受援・支援が可能となる施設整備が必要

- ・ エプロンが使いづらい（スポットが小さく・少ない、エリア分け不十分）。

地震時の液状化対策が必要

- ・ ヘリ用夜間照明がなく、交通途絶時の燃料備蓄量に不安あり
- ・ 警察や消防など関係機関の合同会議や個別指揮所として使える大・小会議室が必要
- ・ 患者対応のためのDMA Tの活動スペースが必要

② 観光・ビジネス

○プライベートジェット機などの小型機、ヘリコプター利便性の向上が必要

- ・ エプロンが使いづらい【再掲】

・ 格納庫が不足している

・ 旅行者やパイロットが休憩・待合できるスペースがない

○現在の福井空港で離着陸可能な航空機のチャーターができるとよい。

③ 教育や地域の利活用

・ パイロット養成のための研修スペースが必要

・ グライダー利用が盛んな「福井空港らしさ」を活かすべき

・ 地元住民の日常利用がほとんどない

5.2 福井空港が目指す姿（案）

激甚化・頻発化する災害に対応するため、福井空港の防災機能を強化し、県民の安全・安心を守る防災の拠点空港を目指す。併せて、観光資源に近い立地を活かし航空機を使った稼ぐ観光を促進する空港、不足する航空人材の育成や地域住民が集う空港を目指す。

上段：ビル外での整備内容

下段：ビル内での整備内容

(ア) 県民の安全・安心を守る防災の拠点空港

- ・能登半島地震級の災害時にも確実に活動できるよう耐震化されたヘリ駐機スポットと給油施設を確保。緊急時ヘリの夜間離発着にも対応
- ・災害対応参集者の活動や、空輸支援物資の中継・集約に必要なスペースを確保、人や物資の受入体制を強化

- ・エプロン拡張、耐震化
- ・ヘリ・小型機のスポットのエリア分け
- ・燃料タンク増設
※救援ヘリ3日分の燃料確保
- ・ヘリ用夜間照明

- ・災害時の合同会議、DMAT活動エリア等

(イ) 観光・ビジネス利用ニーズにきめ細かな対応ができる空港

- ・エプロン内でのハイヤー横づけによる快適な乗り継ぎや、プライバシーが確保できる待合室の提供など、利用者の多様なニーズに対応
- ・地元理解を前提に、福井空港で離着陸可能な航空機のチャーターや、多数の小型機が集うイベント実施など、従来なかった利用にもチャレンジできる施設整備
- ・場外離着陸場を利用するヘリの活動拠点として、ヘリ観光を活性化

- ・エプロン拡張、エリア分け【再掲】
- ・燃料タンク増設【再掲】
- ・消防車の入替
- ・ビジター機用格納庫確保の検討

- ・待合室、乗降ロビー、保安検査スペース

(ウ) 次世代を育み、地域住民に親しまれる空港

- ・福井空港で活動が盛んなグライダーや小型機のパイロット資格取得に取り組む団体が活動するスペースを確保し、福井に愛着を持つ航空人材を育成
- ・地域住民や子どもたちの体験搭乗や先端技術に触れる機会を充実

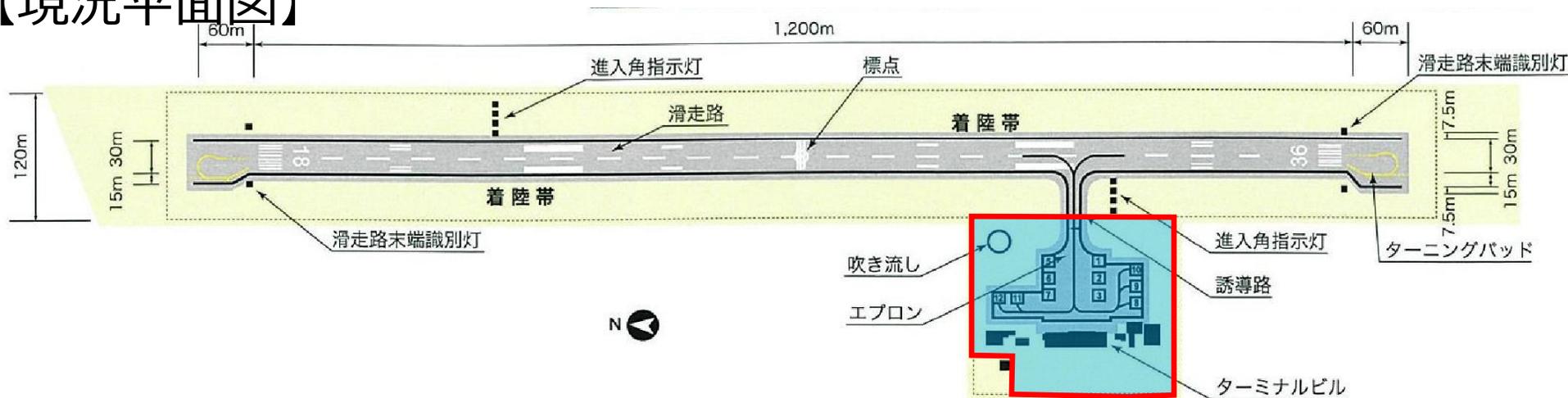
- ・エプロン拡張、エリア分け【再掲】
- ・資格取得用の講義室
- ・体験搭乗協力団体等の活動スペース
- ・展示スペース

議題6

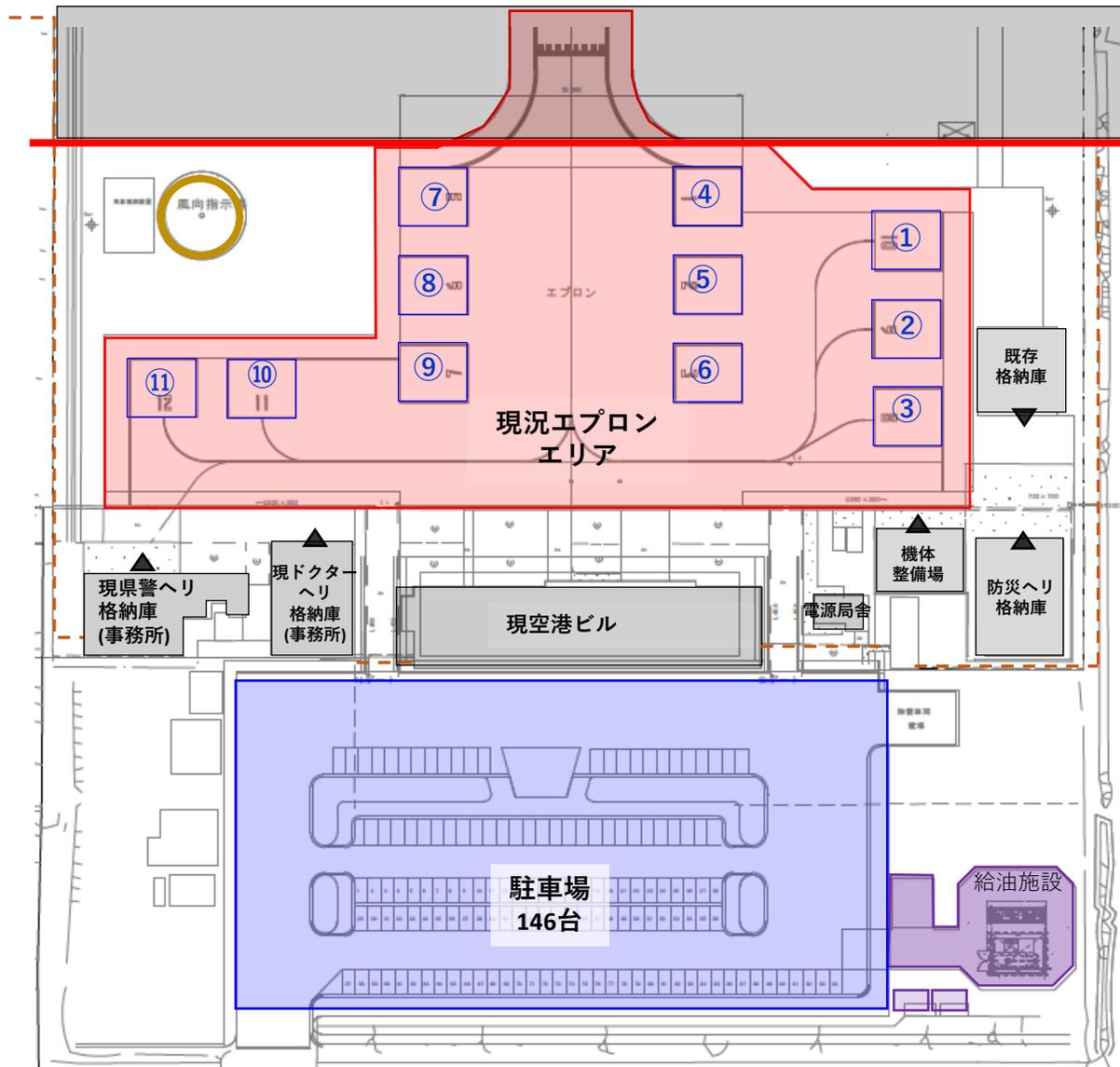
福井空港ビル再整備に係る敷地レイアウト（案）

6 福井空港ビル再整備に係る敷地レイアウト (現況平面図)

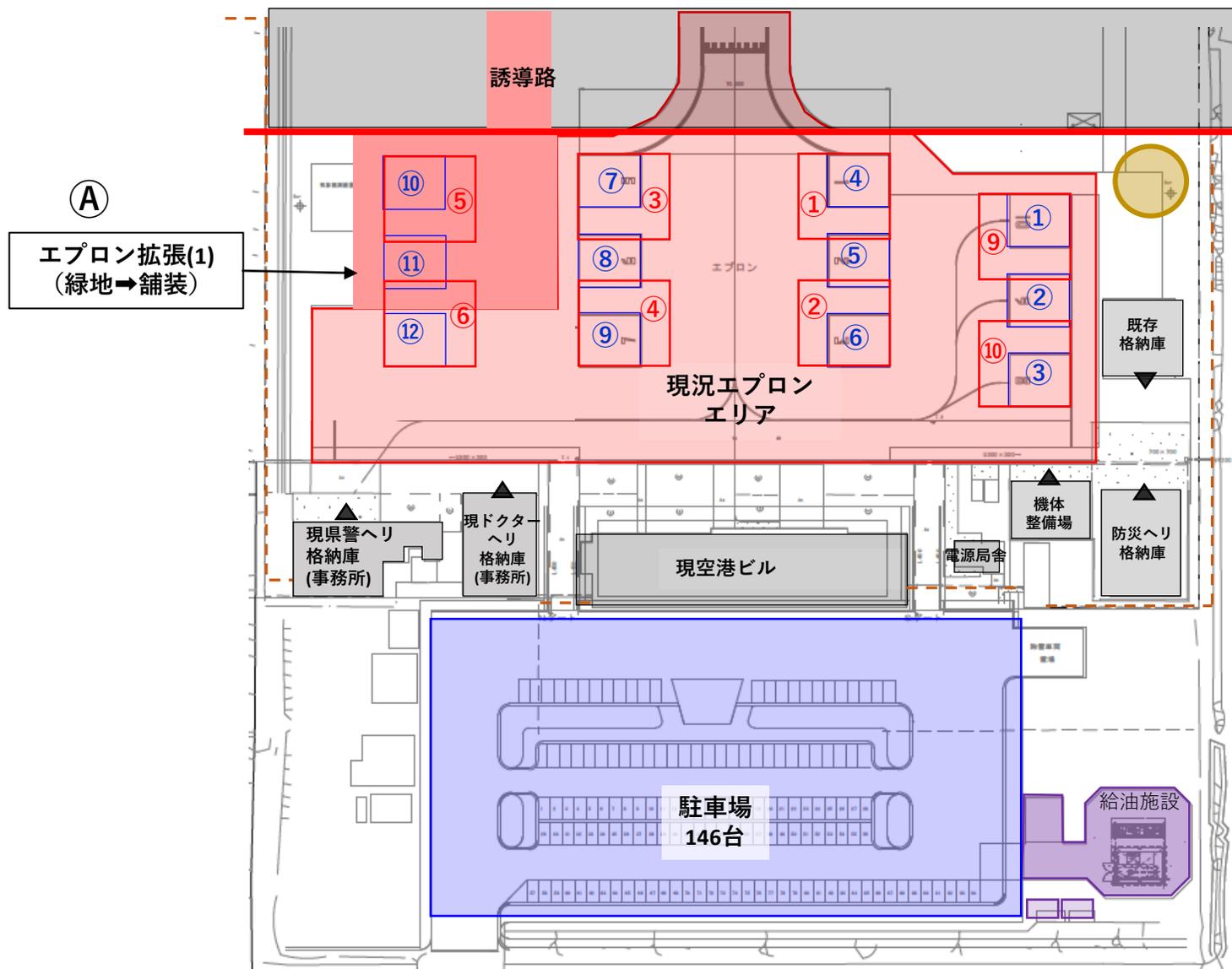
【現況平面図】



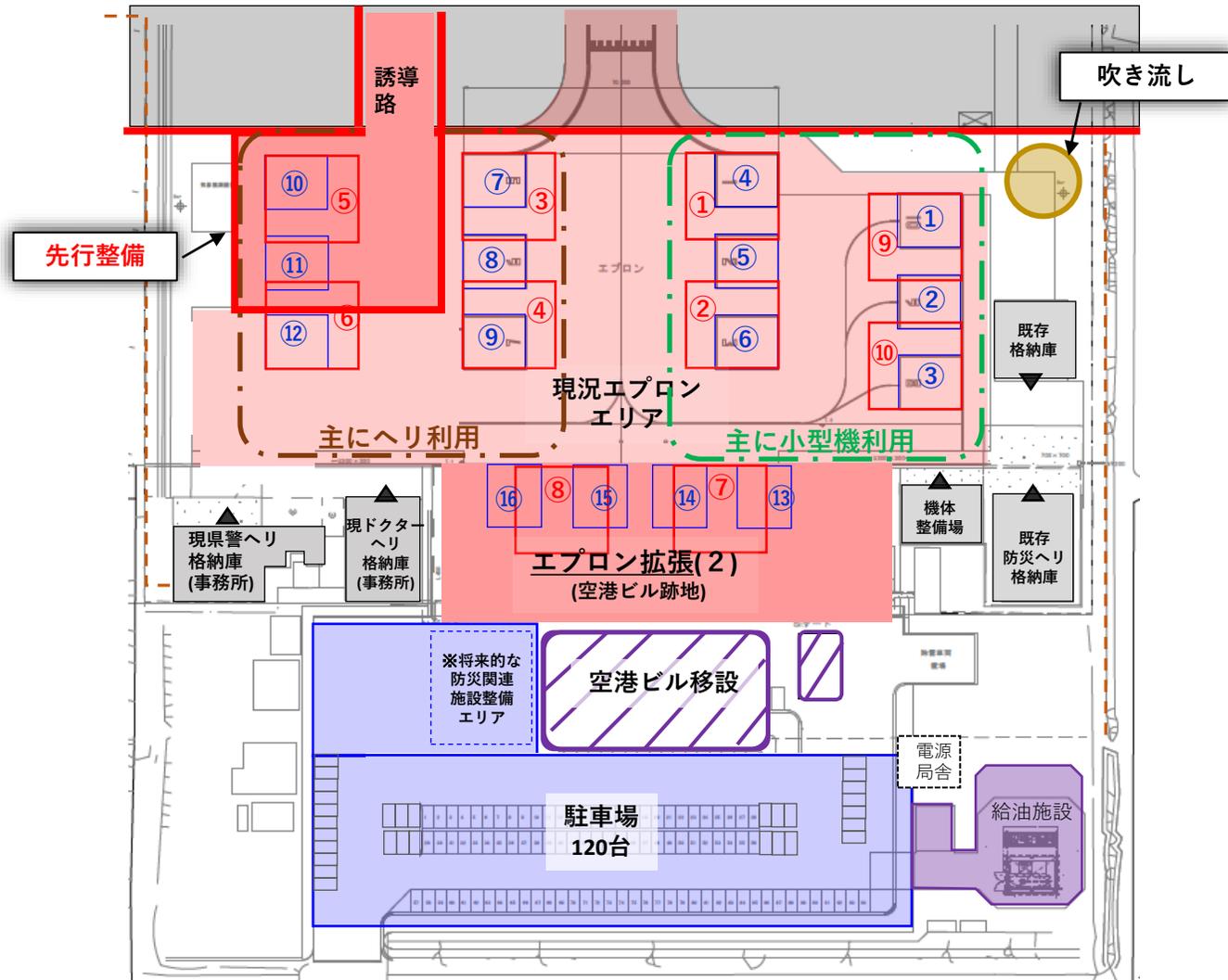
6 福井空港ビル再整備に係る敷地レイアウト（現況）



6 福井空港ビル再整備に係る敷地レイアウト (案) (エプロン拡張1)



6 福井空港ビル再整備に係る敷地レイアウト (案) (新空港ビル完成、エプロン拡張後)



議題7

新空港ビルに導入する機能（案）

7 新空港ビルに導入する機能（案）

福井空港に必要な機能として、以下の（A）～（D）を空港ビル内に整備する施設の検討対象とする。

- （A）基本機能：空港を管理・運営していくうえで必要最低限な機能（＝公的部分）
- （B）空港関連機能：空港運営を支える機能（＝給油・整備会社、防災系ヘリ運航会社など）
- （C）防災機能：空港を拠点して活動する防災に関する機能（＝公的部分）
- （D）防災兼市民利用機能：防災関係機関の現地合同本部などの防災拠点（平時は会議室などとして活用）

（A）基本機能（空港管理など）

- ・ 空港管理事務所
- ・ 機械室
- ・ 消防棟 など

（B）空港関連機能（貸事務所）

- ・ 給油、メンテナンス事業者
- ・ 小型機パイロット団体 など

（C）防災機能

- ・ 防災航空事務所
- ・ DMAT資材倉庫 など

（D）防災兼市民利用機能（※平時利用の用途）

- ・ **DMAT活動エリア** ※乗降ロビー、保安検査
- ・ **災害時の指揮本部、指揮所** ※大／小会議室、資格取得用の講義室、地域活動
- ・ **災害応援職員休憩室** ※待合室、パイロット休憩室 など

○ 1 階ロビー

【災害時】

- ・ 臨時医療施設（SCU）が設置された航空搬送拠点



能登半島地震時の福井空港

【通常時】

- ・ イベント会場
- ・ 展示コーナー



展示コーナー



イベント（フェス等）

○ 合同指揮本部（大会議室）

【災害時】

- ・ 合同指揮本部



国土交通省本部運営訓練より

【通常時】

- ・ 「会議」「講演」「教習」
「イベント会場」として活用



パーティション区切り